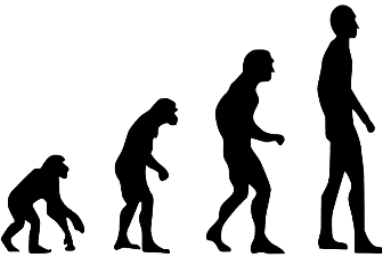


クラシック+ポピュラーの西洋音楽史

2024.04.14. 改訂

@jun_music_study
https://note.com/junjunjunpiano

先史時代



太古から音楽が存在。
・狩りに使う弓→弦楽器
・動物のツノや骨→管楽器
・通信のための石や木片→打楽器

呪術や宗教（雨乞い、弔い）
労働促進（田植えや舟漕ぎ）
求愛などの機能が
あったとされる

歴史時代

古代

ローマ

ギリシャ

メソポタミア

エジプト

アジア

・インダス文明
・中国文明
（黄河文明・長江文明）

ちなみに
日本は
原始～
旧石器
時代

約1万6500年前～
縄文時代

B.C. 10c ～
弥生時代

3c～
古墳時代
（ヤマト王権）

中世

・封建制・荘園制
・諸民族乱入の
時代が続く



カトリック
グレゴリオ聖歌
8c～
単音のお経
（メリスマ、トロース）

ギリシャ正教
ビサンティン聖歌
イスラム教
イスラム教の誕生
アラブ軍の勢力拡大
651 ササン朝
ペルシャ滅亡
「アラブ帝国」状態に。

仏教
6c～7c
飛鳥時代
（大和朝廷）645 大化の改新

＜アラビア世界＞
＝文化の中心
アラビア
ウード
シルクロードで
東アジアまで
交流
アジア
琵琶
8c
奈良時代
日本・唐
琵琶

アラブ音楽（マカーム）
・古代ギリシャの理論が発展し、多様で複雑な
旋法（マカーム）が確立。微分音の使用もこのころから。
・ここで育まれた理論の一部が後にヨーロッパへ逆輸入
され、古典クラシック形成の一因に。

十字軍の派遣・虐殺
1096～1291
1299
トルコ
オスマン朝
成立

勢力
拡大
オスマン・トルコ軍楽
メフテル
打楽器や管楽器の発達

1453
ビサンツ帝国を滅ぼす
オスマン帝国、

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

十字軍失敗・ペスト流行で
教会の権威失墜、混乱が続く。
※ハフスフルク家が皇帝位世襲するように。

イタリアルネサンス開始

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

＜レコンキスタ＞
（キリスト教徒によるイスラム追い出し運動）

＜イスラム圏＞

イベリア半島
（スペイン・ポルトガル）

インコンタマ
ノルマン人
ヴァイキング
登場

フランク王国の西ヨーロッパ支配
（キリスト教との連携）
西フランク
中フランク
東フランク

732
イスラムの進出を
フランク王国が
止める

800
カル大帝
「ローマ皇帝」
戴冠

962
オットー大帝
「ローマ皇帝」戴冠

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー

1337～1453
百年戦争

1215 マグナ・カルタ

ノルマン朝
成立

カペー朝 → ヴァロア朝

フランス王国

＜イタリア地域＞ローマ＝教皇領、多数の都市国家

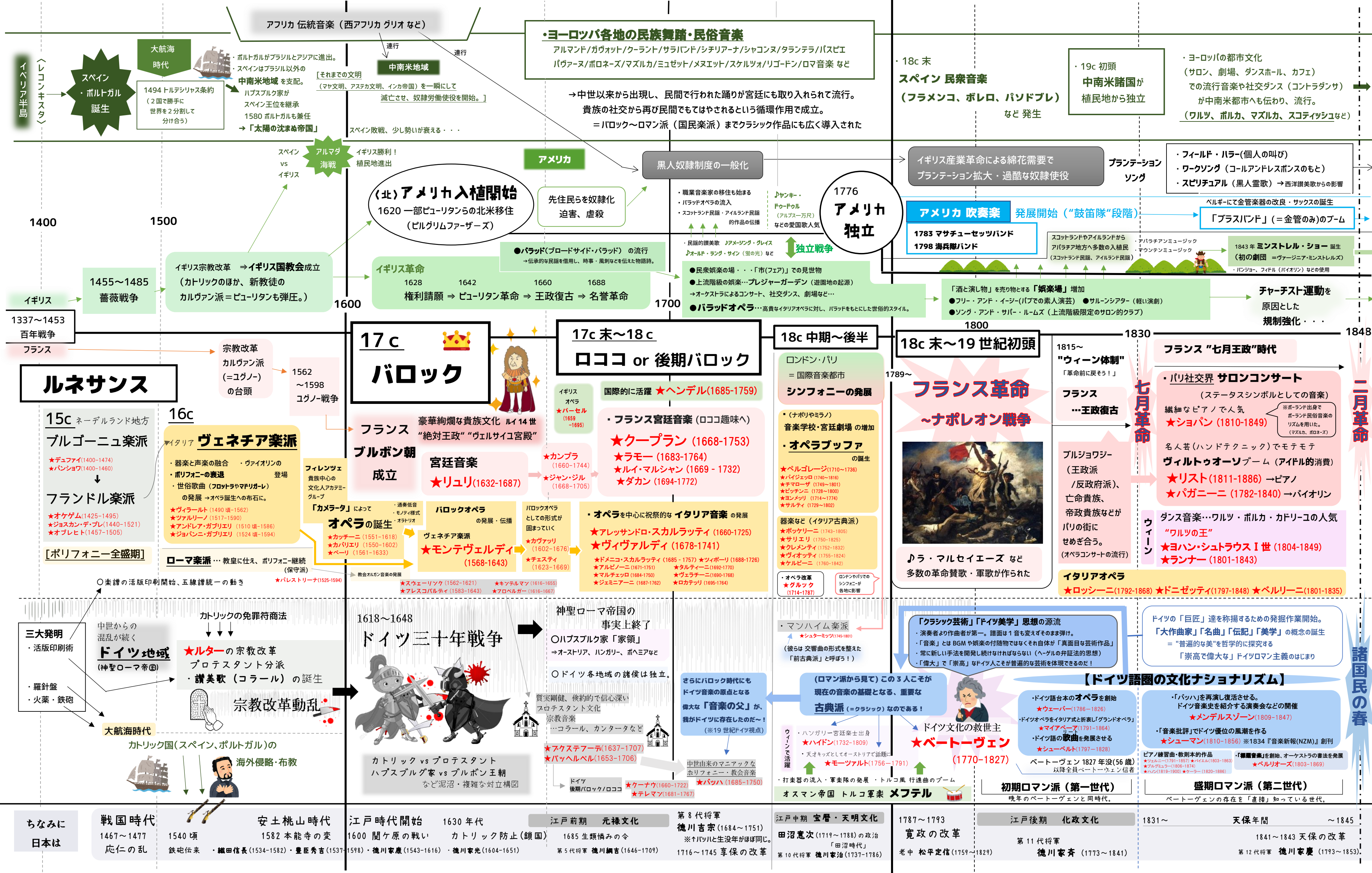
＜ドイツ地域＞神聖ローマ帝国

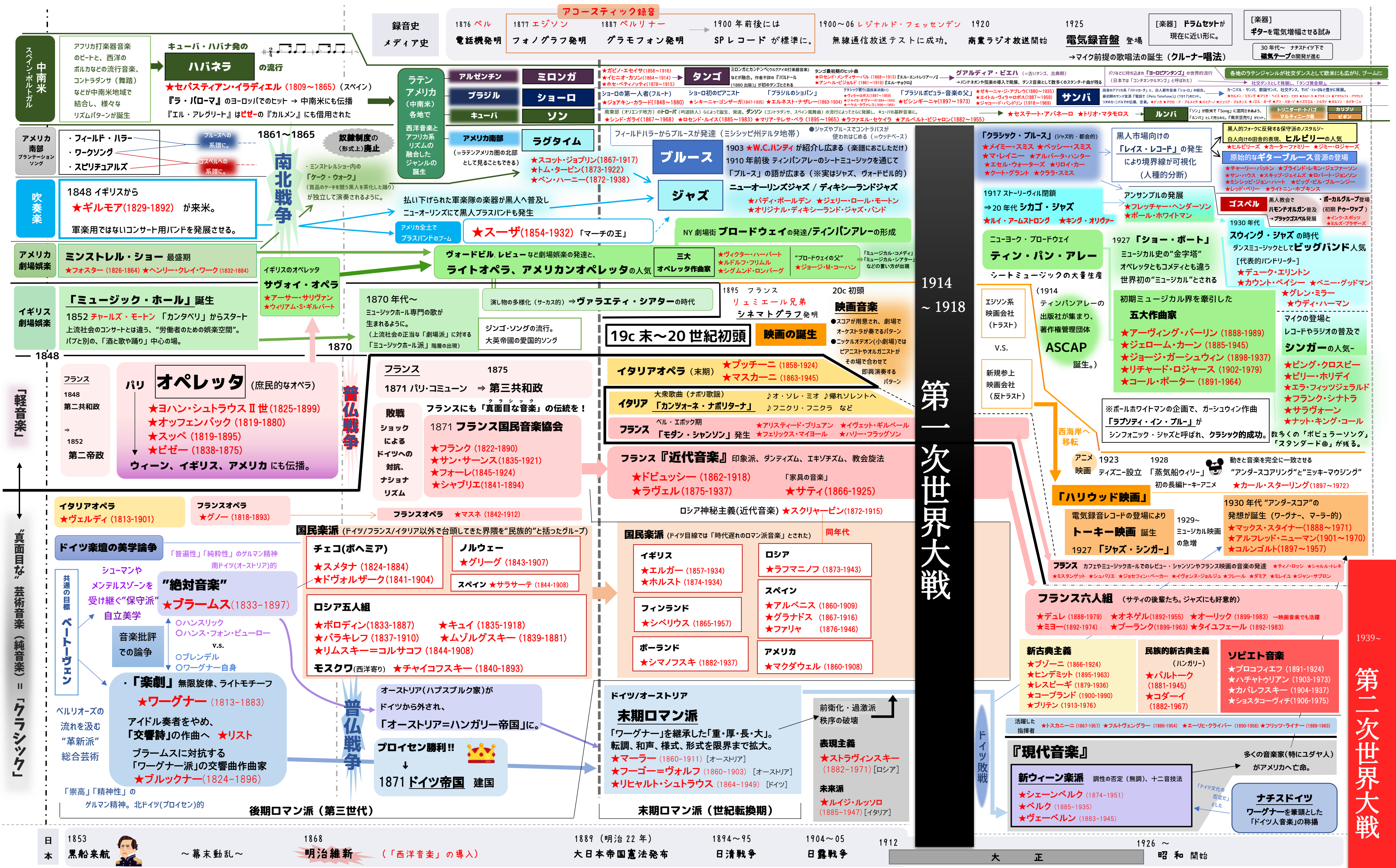
11c～12c 吟遊詩人
トルバドゥール
トルヴェール
ミンネゼンガー 登場

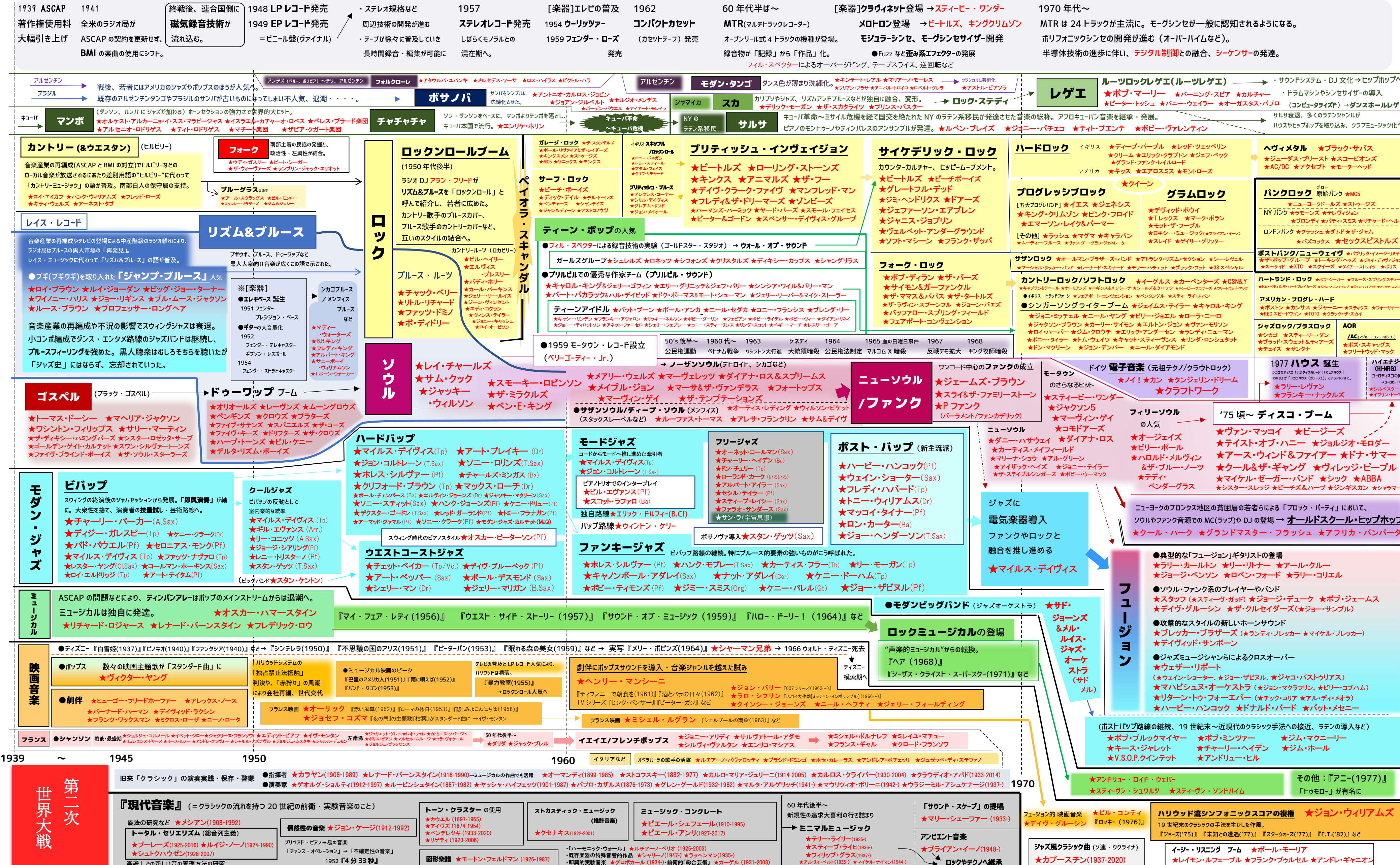
12～13c（ゴシック期）
ノートルダム楽派
…リズムの明確化
★レオニナス ★ペロティヌス

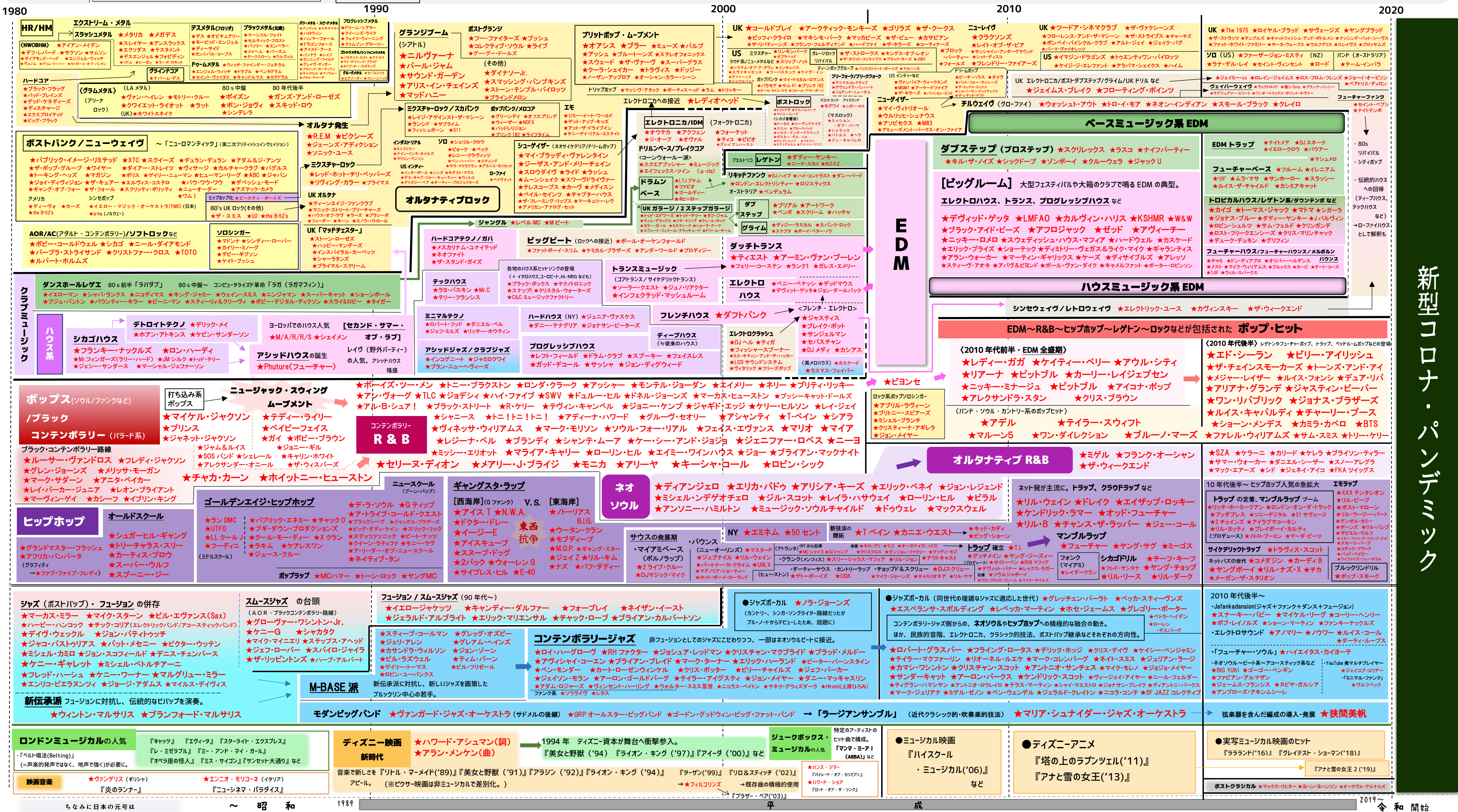
13c 後半
モテット（モテトゥス）
…フランス語の導入
世俗化傾向

14c
アルス・ノヴァ
…教会からの独立傾向
ポリフォニーの発展
★ギョーム・ド・マジョー









参考文献

※文献に載っているすべての内容がそのまま図表に反映されている訳ではありません。

●クラシック音楽史（従来の通史）

岡田暁生『西洋音楽史 ―「クラシック」の黄昏』中公新書, 2005
石丸由理『ともだち音楽史』ドレミ楽譜出版社, 2014
北村英明『いちばんやさしい音楽史』メトロポリタンプレス, 2012
千蔵八郎『音楽史 ―作曲家とその作品』教育芸術社, 1983
久保田慶一 編著『音楽史を学ぶ ―古代ギリシャから現代まで』教育芸術社, 2017
久保田慶一 ほか『はじめての音楽史 増補改訂版 ―古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社 , 2009
柴田南雄『音楽史と音楽論』岩波書店, 2014
上尾信也『音楽のヨーロッパ史』講談社現代新書, 2000
加羽沢美濃『ゼロから始めるクラシック入門』メディアファクトリー, 2014
久保田慶一『西洋音楽史 100 エピソード』教育芸術社, 2012
木石岳 編著『はじめての〈脱〉音楽 ― やさしい現代音楽の作曲法』自由現代社, 2018

●クラシック音楽史（検討・批判・別視点）

岡田暁生『「クラシック音楽」はいつ終わったのか？ ―音楽史における第一次世界大戦の前後』人文書院, 2010
吉成順『〈クラシック〉と〈ポピュラー〉 ―公開演奏会と近代音楽文化の成立』アルテスパブリッシング, 2014
樋口裕一『音楽で人は輝く ―愛と対立のクラシック』集英社新書, 2011
原博『無視された聴衆 ―現代音楽の命運』アートユニオン, 1996
上田泰史『パリのサロンと音楽家たち ―19 世紀社交界への誘い』カワイ出版, 2018
福田公子『19 世紀パリのサロン・コンサート ―音楽のある社交空間のエレガンス』北星社, 2013
宮本直美『コンサートという文化装置 ―交響曲とオペラのヨーロッパ近代』岩波現代新書, 2016
渡辺裕『聴衆の誕生 ―ポスト・モダン時代の音楽文化』春秋社, 1989
石井宏『反音楽史 ―さらば、ベートーヴェン』新潮社, 2004
かげはら史帆『ベートーヴェン捏造 ―名プロデューサーは嘘をつく』柏書房, 2018
吉田寛『〈音楽の国ドイツ〉の神話とその起源 ― ルネサンスから十八世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 1）』青弓社, 2013
吉田寛『民謡の発見と〈ドイツ〉の変貌 ― 十八世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 2）』青弓社, 2013
吉田寛『絶対音楽の美学と分裂する〈ドイツ〉 ― 十九世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 3）』青弓社, 2015
柿沼敏江『〈無調〉の誕生 ―ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』音楽之友社, 2020
ジャン・コクトー『雄鶏とアルカカン ― ジャン・コクトーの音楽小論』池谷竜 訳 , MyISBN, 2019

●吹奏楽、劇場音楽、映画音楽など

秋山紀夫『吹奏楽の歴史 ―学問として吹奏楽を知るために』ミュージックエイト, 2013
中野京子『おとなのための「オペラ」入門』講談社α文庫, 2009
岡田暁生『オペラの運命 ―十九世紀を魅了した「一夜の夢」』中公新書, 2001
井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』朝日選書, 1990
斎藤偕子『19 世紀アメリカのポピュラー・シアター ―国民的アイデンティティの形成』論創社, 2010
海野弘『酒場の文化史』講談社学術文庫, 2009
小山内伸『ミュージカル史』中央公論新社, 2016
出口丈人『映画映像史 ―ムーヴィング・イメージの軌跡』小学館, 2004
北野圭介『新版 ハリウッド 100 年史講義 ―夢の工場から夢の王国へ』平凡社新書, 2017
宮本啓『映画音楽への招待』丸善ライブラリー, 1994
柳生すみまる『映画音楽 ―その歴史と作曲家』芳賀書店, 1985
谷口章弘『ディズニー・ミュージック ― ディズニー映画 音楽の秘密』スタイルノート, 2016
高岡智子『亡命ユダヤ人の映画音楽 ― 20 世紀ドイツ音楽からハリウッド、東ドイツへの軌跡』ナカニシヤ出版, 2014

●ポピュラー音楽史（主にアメリカ音楽史概略～ロック史）

奥田恵二『「アメリカ音楽」の誕生 ― 社会・文化の変容の中で』河出書房新社, 2005
大和田俊之『アメリカ音楽史 ―ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』講談社新書メチエ, 2011
山室紘一『世界のポピュラー音楽史 ― アーティストでつづるポピュラー音楽の変遷』ヤマハミュージックメディア, 2012
高増明 編『ポピュラー音楽の社会経済学』ナカニシヤ出版, 2013
鈴木道子『アメリカン・ミュージック・ヒーローズ 改訂版 ―米国ポピュラー音楽の歴史』(株)シヨパン, 2005
當間麗『アメリカン・ルーツ・ミュージックとロックンロール 改訂版』DTP 出版, 2014
當間麗『アメリカン・ポピュラー・ミュージック 改訂版』DTP 出版, 2014
みの『戦いの音楽史』KADOKAWA, 2021
柴田修平 編『CD ジャーナルムック MTV ロック検定 公式テキストブック』(株)音楽出版社, 2007
ロック・クラシック研究会 編『ロック・クラシック入門 ― 重要アーティスト&名盤徹底ガイド』
海藤哲 編『ロックの教科書 ―大人のためのロックヒストリー』笠倉出版社, 2015

●ジャズ（従来の通史）

澤田俊佑 監修『面白いほどよくわかる ジャズのすべて ―学校で教えない教科書』日本文芸社, 2007
南武成『Jazz It Up! マンガまるごとジャズ 100 年史』講談社, 2008
菊池成孔+大谷能生『東京大学のアルバート・アイラー ― 東大ジャズ講義録・歴史編』メディア総合研究所, 2005
菊池成孔+大谷能生『東京大学のアルバート・アイラー ― 東大ジャズ講義録・キーワード編』メディア総合研究所, 2006

●ジャズ（フュージョン～コンテンポラリージャズ）

笹川孝司 編『フュージョン』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter ―ロバート・グラスパーから広がる現代ジャズの地平』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter2』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter3』シンコーミュージック, 2015
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter4』シンコーミュージック, 2017
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter5』シンコーミュージック, 2018
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter6』シンコーミュージック, 2020
常盤武彦『ニューヨーク・ジャズ・アップデート ― 体感する現在進行形ジャズ』小学館, 2018
松坂ゆう子 編『隔月刊ジャズ批評 11 月号(2015) ― 特集「ロバート・グラスパー/ハービー・ハンコック」』ジャズ批評社, 2015

●その他

泉山真奈美 ほか 著, ロック・クラシック研究会 編『ブラック・ミュージック入門』河出書房新社, 2008
世界の音楽編集部 編『音楽がわかる世界地図 ― 今と過去、世界各地の音楽・楽器・ミュージシャンが一冊でわかる!』ロコモーションパブリッシング, 2005
石橋純 編『中南米の音楽 ― 歌・踊り・祝祭を生きる人々』東京堂出版, 2010
ウィリー・マウパー『リアル・ブラジル音楽 ― 1 冊でわかるポケット教養シリーズ』ヤマハミュージックメディア, 2015
みつとみ俊郎『音楽ジャンルって何だろう』新潮選書, 1999

ほか、Wikipedia 各項目や、各ネット記事、YouTube の解説動画、世界史の受験用参考書など多数。